

(寄稿)

NOMURA

## 福祉業界に新しい価値を生み出す エムダブルエス日高のイノベーション

高い天井で開放的な明るい雰囲気を持つ、株式会社エムダブルエス日高が運営するデイサービス「日高デイトレセンター」は、定員 300 名を超え、登録利用者 800 名以上の大規模施設である。

2018 年の介護報酬改定で、デイサービスの報酬にかかる時間区分の変更により、収入減対策に悩むデイサービス事業者も多いという。このような逆風の環境のなか、一定の収入減は避けられないものの、当施設における収支へのインパクトは大規模であるが故のコストメリットの恩恵もあるが、比較的影響は少ないという。

そのカギとなるのは、多彩なアクティビティーもその要因の一つと考えられる。当施設のアクティビティーは、リハビリテーション(筋トレ、有酸素運動など)から料理教室まで約 200 種類以上のコンテンツがある。それに加え、カフェテリアなどもあり、利用者が長時間、退屈することなく過ごすことができる。そして、リハビリテーションについて、利用者ごとに実施実績を管理しており、そのデータ分析に基づいて、自立回復・支援に役立っている。また、施設運営面では、食事はバイキング形式にしたり、給茶機などを設置したり、利用者ができるだけ自ら動くように考えられている。

そして、当施設の規模を最大限に生かした大きな特徴は、保険外収入となるサービス提供にもある。2階建ての当施設は、2階部分をフィットネスジムや、地域の中高生のための自習室などに活用している。夜間は稼働しないデイサービスにとっては、好都合というわけである。

本稿は、この大規模施設(日高デイトレセンター)を運営する株式会社エムダブルエス日高の北嶋史代表取締役社長に寄稿いただき、当施設の運営にかかる考え方や具体的な取り組みについて、紹介いただいた。

2018 年の介護報酬改定において、通所介護(デイサービス)事業者における自立支援に対するインセンティブが制度化された。そのような環境のなかで、当施設における利用実績の活用の仕組みなどは今後注目される。また、保険外サービスについても本稿において詳しく紹介されており、今後のデイサービス事業の在り方を考える一助となれば幸いである。

(市川)

2018 年 8 月 20 日

Healthcare note

(No. 18-08)

寄稿者名：  
株式会社エムダブルエス日高  
代表取締役社長  
北嶋 史

編集主幹：  
野村ヘルスケア・  
サポート&アドバイザー  
市川 剛志

野村証券株式会社  
金融公共公益法人部